



認知症キャラバン・メイトのお話

※認知症キャラバン・メイトは、認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」の企画、立案を担い、講師役を務めていただく方です。

ツクイ横須賀光風台グループホームの吉田あゆみさんにお話を伺いました。

【より良い認知症ケアとは何か、いつも私たちが大切にしていること】

認知症になると、物忘れ・徘徊・暴言・失禁・・・などのマイナスなイメージが取り上げられることが多くありますが、このような行動や症状は、認知症の病だけが原因ではなく、その方を取り巻く環境も大きく関わっていると考えられています。

ツクイは三浦半島に3か所のグループホームを運営しています。グループホームという環境の中で、お客様一人ひとりの笑顔をどれだけ引き出せるかが、私たちの仕事であり、やりがいでもあります。3つのグループホームで情報を共有、切磋琢磨しながら「より良い認知症ケアとは？」を常に考えています。

お客様は困りごとを言葉にできず、動き回ったり怒ったりしながら思いを表現していくことがあります。私たち介護者は、お客様のしぐさや思いを早めにキャッチすることを心がけています。「食べたと言われてもお腹はすいている」「息子に食事の支度をするから帰らなきゃ」「背中が痒いけどどうしたらいい？」「頭が痛くてつらい」「テレビの音がうるさい」「トイレに行きたかったがどこかわからない」など、その時の思いや困っていることを一緒に考えながら解決に導くことが、お客様の安心に繋がるのではないのでしょうか。その瞬間の思いに寄り添っていく事が大切だと考えています。

もう一つ私たちが大切にしているのは、きっかけ作りです。お客様の「やってみようかな」という意欲を引き出すアプローチを続け、「〇〇さんだからできること」を見つけていく。お客様が「ありがとう」の感謝の言葉や「頑張ってる」と励ましの言葉を周りの方から受けることで、やりがいや役割に繋がっていくと実感しています。上手にできなくて迷った時、さりげなくフォローするのが私たちの役割です。毎日たくさん交わす会話や、ご家族・友人の方の情報からヒントを見つけて、興味を持てることやできることを探し、チャレンジを続けていくことが、グループホームでの生きがいに繋がっていくと実感しています。

職員より力になってもらえるのは一緒に暮らしているお客様、そして何よりご家族にはかないません。離れて暮らしていても、ご家族との繋がりを感じる瞬間が笑顔になるのです。

元カリスマ主婦の家事へのこだわり、元自衛官の仕事への誇り、元自治会長の人への思いやり、元美容師のおしゃれへの思い。お客様のその方らしさを『今』に繋げたい。私たちは、日々そんなことを思いながら認知症の方と過ごしています。

【地域の皆様へのメッセージ】

認知症の方々と毎日接する中で、日々学ぶことはたくさんありますが、良い時ばかりではなく、悩むこともあります。地域の方々が、認知症という病に不安を感じた時に、ツクイが気軽に立ち寄れる場所であり、また一緒にお話しして、ご相談いただける存在でありたいと思います。そして、認知症であるお客様ご本人やご家族が笑顔で暮らせる優しい地域の一員でありたいと考えています。

問い合わせ先:福祉総務課 地域力推進係 (046-822-9804)

いきいきした瞬間



普通食おせち

ムース食のおせち



食へのこだわり

